



## 平野実晴助教へのインタビュー

### ケースコンペティションの機会を学生のために

～学生の挑戦と高みを目指す姿勢を後押しする方法～

#### 平野 実晴助教

2019 年秋から APU で勤務。国際法を専門にアジア太平洋学部（学修分野：国際関係）にて教鞭を執る。



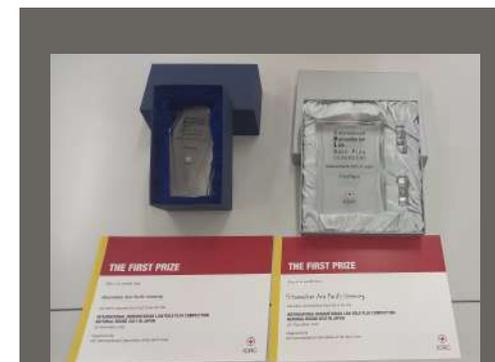
2022 年 11 月時点

## はじめに

APSでは、ロールプレイやムートコートなど、従来の教室学習を超えた多様なプラットフォームを通じて学ぶことができる機会がこれまで以上にあります。APUは、2021年から2年連続でアジアカップ国際法ムートコート大会に唯一の日本代表2校として参加しました。さらに、2021年と2022年の国際人道ロールプレイ大会では、本学チームが優秀な成績を収め、2年連続1位を獲得しています。

ALRCSのプロジェクトQチームは、経験豊富な2人のメンターと素晴らしい成果を挙げた2人の学生の視点から、ケースコンペティションにおけるメン

ターの役割について考察します。私たちの記事により、他の先生方がAPUにおけるケースコンペティションの重要性を認識し、メンターとして学生を成功に導く方法を見出す一助となれば幸いです。



国際人道法（IHL）ロールプレイ大会の表彰状と楯

### Q1. 平野先生が指導されているケースコンペティションについて教えてください。

私が指導しているコンペティションは国際法模擬裁判と（国際人道法の）ロールプレイの2つです。

#### “国際法模擬裁判コンペティション”の流れ

事務局から架空の国家の紛争を題材にした問題文が提示される  
↓  
書面（メモリアル）  
チームごとに主張を文章にまとめる。  
↓  
口頭弁論  
架空の事実関係において発生した法的問題について、原告側と被告側に分かれて裁判官の前に弁論を行う。

#### “国際人道法ロールプレイ”の流れ

大会当日に公開される場面設定に基づき、武力紛争下におけるさまざまな架空の状況下で、人道支援団体をはじめ政府、メディアなど、各自割り当てられた様々な役割を演じ、戦闘員や捕虜といったミッションに挑む。

去年までは完全オンラインで指導を行っていましたが、現在は対面で1、2週間に一度集まって、私から学生にフィードバックして、大会に向けて準備を行っています。大会とは別に、模擬裁判を行う合同ゼミを立命館大学の先生と行っています。大会の方は、ゼミの中から有志で参加を希望する4年生が出演しており、彼らは先輩として合同ゼミに参加する3年生へのサポートも行っています。この活動は、図書館とデータベース、そして

国際法や日々の学びで得た知識やスキルを総合的に活用することが欠かせませんね。

### Q2. 模擬裁判への参加のきっかけは何ですか？

学生時代、自分自身も模擬裁判に参加していた経験がありました。そして、実際にAPUの環境、主に初年次教育（MCW）の講義やその雰囲気、TAの活動を見て、アクティブな学び方がケースコンペティションにフィットすると感じました。これに加えて、国際法の講義で学んだことを活かし、さらにゼミでその実力を発揮する学生たちをみて、その可能性を感じました。そこで実際にゼミ生に声を掛けてみると「やりたい！」

という声が出たので「じゃあ、やるからには勝とうぜ」って。これが始まりですね。

### Q3. 今までで最も興味深かったコンペティションは何ですか？

国際法模擬裁判コンペティション「アジアカップ」という大会には、日本から2つの大学だけが出場できるんです。初めての挑戦でAPUは、国内選抜を突破し、日本代表の出場権を獲得したんです。その時は書類審査だけでしたので、認められるレベルに達していることが、驚きというか喜びというか、そういうものを感じましたね。これに、後輩たちも触発されたと思います。

もう一つは「国際人道法のロールプレイ」

コンペティションに参加した時です。私はロールプレイはやったことが無かったのですが、APU 生の演技力も素晴らしくて非常に面白かったですね。流石日本チャンピオン！

## ●学生の参加に関して

### Q4. 学生にとって必要なスキルや心掛けるべき姿勢を教えてください。

法的な知識としては、ある事実関係を法律に当てはめたときにどう評価するのかという「リーガルマインド」を持つことが必要です。その際、国際法の内容が曖昧な場合があるんですが、その時に必要となってくるのが「リサーチ力」、どうやって関連する法文書を探すのか、更にはど

うすれば説得的な論証になるのか、自ら考えながら取り組むスキルは欠かせないですね。

「英語力」はもちろんですが、書面に欠かせない「文章力」、ロールプレイでは特に「対人スキル」、そしてたとえ自信が無くても「自信を持って挑む力」、論証が崩れても組み立て直せる「忍耐力」も非常に重要になってくると思いますね。

そして、学生たちがチームとして同じ土俵に立っていることが非常に重要です。これに関しては私（教員）が指示することができるものではないんですよ。だから学生たちは個人個人の目標は違っても、チームメイトがどのようなモチベーションを持ってコンペティションに参加して



2022 年度国際人道模擬裁判問題文より抜粋



いるのか、たとえ熱意が違ったとしても互いに歩み寄る姿勢、それぞれが置かれている状況が違うということを理解することが大切になります。

### Q5. コンペティションは学生にとって重要（有益）な経験であると思いますが、具体的にどういった部分が鍛えられるのでしょうか？

前問で述べたスキルは間違いなく全て鍛えられるのですが、コンペティションを経験していく中で重要だと思ったのは、できたときに承認が得られることで自信になるということです。APU には法学部がないので、参加する学生はできているのかが分からないんですよ。教員が言うことを全面的に信頼しなければ

ならないのですが、対外的なところで一定の成果を得ることは大きな自信になりますし、(APU) 外の環境で裁判官をする先生や他校の学生からフィードバックを得ることでより客観的に能力を伸ばすということができると思いますね。

ただ課外活動であるため、単位にはなりません。就職や大学院進学の準備などの両立はやはり難しいので、マネジメント能力がないと大変にはなりますね。

## ●指導側（教員）に関して

### Q6. 学生の経験がより良いものとなるように心掛けていることはありますか？

まず、「学生が自信を持って挑戦できるよ

うサポートすること」。やっぱり名門大学とのコンペティションになると学生たちも及び腰になってしまうことがあるんですが、「勝っていいんだよ！全力で戦ってこい！」とサポートしています。そして、「プランニング」。必死のあまり潰れてしまうことがないように個人個人をみることを心掛けていますね。また、「学生自身の成果や今後伸ばすべき能力を具体的に言語化して伝えること」。そうすることで学生たちはより自信をもって取り組めると思うんですね。

以上のようなことが、私が学生たちに対して心掛けていることですが、日々学生たちが頑張る姿を見て、私自身も活力をもらっています。相乗効果ですね。また、先程述べたロールプレイなど私自身が経

験したことが無いわけですが、指導しながら気づくことも多く、私としても学びですよね。

**Q7. 今後のコンペティションに関して意気込みをお願いします。**

先週末ロールプレイの大会があって、2年連続優勝したんです。その結果3名の学生がアルバニアで行われる世界大会に出場することが決まりました。だから今は「世界を舞台に頑張れ！」っていう気持ちが一番大きいですね。

## インタビューの感想

今回のインタビューは、ケースコンペティションの魅力を直接先生からお伺いすることができた非常に貴重な機会でした。特に普段は手厚いサポートを行っている先生ご自身の指導に関してお聞きできたことは非常に興味深いものでした。

今後も多くの方がコンペティションで新たな挑戦をされること、この記事がコンペティションに興味のある学生の方々の参考になることを願っています。



Project Q のメンバーと平野先生

## 「Q」とは

APU で素晴らしい授業を行っている先生方はたくさんいらっしゃいますが、先生方が授業中にどのような工夫をしているのか知ることが出来れば、他の先生の授業改善にも役立つ。そのために、インタビューをして授業の工夫を教えてください、ということで始めた取り組みです。この記事は、授業の「Quality=質」を高める、質を高めるための「Question=問」に答える、授業改善の「Queue=列」をなす、など、色々な意味を込めて「Q」と名付けました。先生方の授業の質向上の「Quest」に役立てられると幸いです。



# インタビュー&ライター



名前：柴田彩葉

学部：APS

出身：日本

メッセージ：皆さん、こんにちは！2021年秋から ALRCS で Q-team メンバーとして活動している柴田彩葉です。趣味は音楽を聴くことと、デザインをみることです。ProjectQ に参加したことで、APU での学びについて教授や先輩である学生の視点から知ることができ、私自身の学びを一層深めたいという思いが強まりました。今後もインタビューで知り、感じたゼミの魅力について学生の皆さんにお伝えしたいと思います！

# インタビュー

名前：ドゥノク ミントゥー

学部：APM(A&F)

出身：ベトナム

メッセージ：こんにちは！2回生で会計・ファイナンスを専攻しているゾーイです。私は文章を書いたりブログを書いたりすることに情熱をもって取り組んでいます。たくさんの人と話をし話を聞き、みんなに読んでもらえるように構成された記事を書くまでの過程が好きです。私は Q チームのメンバーとして、APU での学びについて、教員と学生両者にとって質の高い記事を提供していきたいと思っています。

